

令和 5年度 綾瀬市立綾瀬小学校 学校関係者評価報告書(様式)

<p>綾瀬市教育委員会の基本方針</p>	<p>(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども</p>
<p>学校教育目標</p>	<p><b>心豊かで、たくましく生きる子</b>          ・真心と、思いやりのある子          ・健康で、粘り強い子          ・よく考え、進んで学習する子</p>
<p>学校経営方針 (グランドデザイン)</p>	<p>令和5年度 綾瀬市立綾瀬小学校グランドデザイン</p> <p>学校教育目標</p> <p>心豊かで、たくましく生きる子          ・真心と、思いやりのある子          ・健康で、粘り強い子          ・よく考え、進んで学習する子</p> <p>育てたい資質・能力</p> <p>〇聴いてつなげる力 〇自分の考えを持ち表現する力 〇チャレンジする力</p> <p>重点目標</p> <p>自分で考え行動することができる子</p> <p>安全・安心な あたたかい学校</p> <p>【支援教育の充実】          ・コーディネーターを中心とした支援体制の充実          ・自己肯定感を高め、一人一人の居心地のよい環境を創る          【道徳教育の推進】          ・考え議論する授業づくり          【安全指導の充実】          ・「自分の命は自分で守る」指導の浸透          【特別活動の充実】          ・子どもの想いを大切に創りあげる          【児童指導の徹底】          ・子どもに寄り添ったあたたかい児童指導          ・きまりをまもる          ・あめさつ・むくそうじ          ・むいむいどん          ・くつをそろえる</p> <p>確かな学びを はぐくむ学校</p> <p>【基礎・基本の定着】          ・主体的・対話的で深い学びの実践          ・「聴く」「話す」の重視          ・家庭学習の習慣化          ・読書活動の充実          【校内研究の充実】          ・「生活科、総合的な学習の時間」を通して「地域のひと・もの・こと」に関わる単元づくりに取り組む          【体づくり】          ・基本的な生活習慣の徹底          ・生活リズム大作戦          【ICT機器の有効活用】          ・タブレットの効果的な活用</p> <p>信頼される学校</p> <p>・「チーム縮小」としての意識をもつ          ・危機管理意識の徹底          ・「相談・連絡・報告・確認」の徹底          ・グループ組織の活性化          ・カリキュラム・マネジメントの推進          ・専門職や外部機関との連携          ・「地域とともにつくる学校」の展開          ・教職員働き方改革の推進</p> <p>ユニバーサルデザイン</p> <p>教育理念</p> <p>自他尊重 「自分も大切 相手も大切」          多様性を認め 互いの個性を尊重し 他者と協働する力をはぐくむ          インクルーシブ教育の推進</p>
<p>今年度の重点目標</p>	<p>自分で考え行動することができる児童の育成          ・聴いてつなげる力 ・自分の考えを持ち表現する力 ・チャレンジする力</p>

取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「自分で考え行動する力」を育てるために、学習活動に取り組んでいる。	90%近くの児童が「授業中、進んで学習に取り組んでいる。」と回答しています。さらに意識的に思考力・判断力・表現力を磨くことができるような授業展開の工夫や教職員への研修を実施するとともに、保護者とも連携して、家庭においても協力していただけるよう働きかけていきます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動をはじめ、学校生活にめあてを持って毎日を過ごしている。	1の設問の視野をより広げ、学校生活全般についての質問としています。児童・保護者共に、積極的の回答が8割を超えています。今後も学校行事等を含むカリキュラム全体を見直して、育てたい力をより効果的にはぐくめるよう教育課程の編成に努めていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「自尊尊重」の学校づくりに取り組んでいる。	「真心と、思いやりのある子」をはぐくむために、道徳教育や特別活動の充実に力を注ぎ、引き続き「自尊尊重」の学校づくりに取り組めます。互いに安心して過ごしやすい環境となるよう努めていきます。
4 児童・生徒指導	児童は、友人や先生との学校生活に満足している。	新型コロナウイルスの感染の落ち着きを受け、規制・制限が緩和の方針となり、行事を含む教育活動の多くが通常に戻りました。多くの児童が「学校は楽しい」と評価しています。児童が「楽しい」と感じるためには、学校・教室が居心地の良い場であることが大切です。他者とのつながりを大事にし、学校生活を実りあるものにしていきます。そのために、家庭・地域との連携を図り、引き続き授業改善や特別活動の充実に力を注いでいきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの未然防止、早期発見・早期対応のための取組を行っている。	いじめの早期発見・早期対応に加え、すべての児童について普段から観察を怠らないこと、些細な変化であっても見逃さないことを意識しながら指導にあたり、いじめの「未然防止」に取り組んできました。児童指導・支援グループを中心に、学校全体で教職員の意識を高めていくとともに、保護者との連携を大切にして児童の人間関係づくりを支えていきます。
6 保健管理	学校は、「健康で、粘り強い子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	教職員が「健康観察」「健康指導」を継続するとともに、規則正しい生活を促すための「生活リズム大作戦」や「健康カレンダー」「保健だより」などを活用し、家庭との連携をとりながら取組の充実に努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	来年度もより実践的な避難訓練・退避訓練・交通安全教室などを計画し、児童が自分の命を守る力を付けられるよう指導を重ねます。学区には交通量の多い道路が多いため、登下校の際は見守りなど、児童の安全確保のために地域の方が積極的に活動してくださっていますが、そういう方々と連携しながら、一人ひとりが交通安全への意識をさらに高めるようにしていきます。施設・設備については関係機関とも連携し、早急な対応を心がけます。
8 支援教育	学校は、児童に応じた支援の工夫を行っている。	学校全体としての支援の体制は、充実したものになってきています。今後も児童指導・支援グループを中心に児童一人ひとりや保護者の教育的ニーズに応じた対応が組織的にできるようにしていきます。また、今後も授業や学級経営の場面における支援の仕方などインクルーシブ教育についても職員研修を進め、全職員で足並みを揃えた授業を心掛けて取り組み、児童一人ひとりの実態に応じた教育活動の必要性を再確認します。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	今年度も、「自尊尊重」の学校づくりに取り組み、「自分で考え行動することができる子」をはぐくむという重点目標に向かって、4つのグループの各担当や担任・学年等が取組を進めました。来年度も、カリキュラム・マネジメント会議を通して職員間で共有を図った育てたい資質・能力につながるグランドデザインの具現化を図っていきます。また運営組織の見直しなどを行うことで働きやすい環境作りにつなげ、職員一人ひとりがゆとりをもって教育活動を行えるようにしたいと考えます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	カリキュラム・マネジメントに組み込みながら、さらにカリキュラム・マネジメントへの理解を深め、より効果的・効率的にはぐくみたい力が身に付く教育課程の編成を心がけます。また、授業改善の視点をもって日々の授業に取り組んでいきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のために工夫している。	引き続き一人ひとりの児童理解に努め、児童の主体的な活躍の場を多く設け、自己肯定感を高める工夫をしていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も今年度の取組を生かし、教育活動の見直し等を進めていきます。「学校・学年だより」や「学級懇談会・個別面談」等の充実に努め、引き続き保護者や地域の方々に教育活動を伝える努力をしていくとともに、地域ボランティア等との連携を推進していきます。
<p>【学校運営協議会からの意見及び改善策】</p> <p>○グランドデザインから</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「聴く力」は弱くなってきていると感じる。人の話を聴くことよりも自分の世界に入ってしまう児童が多いように思う。未就学期の経験として、人の話を拾うということも少ないと思われる。また、今の子はスマホやタブレット・ゲームなど視覚から入ってくる情報も多い。</li> <li>⇒耳からの情報は想像力を養うことにも有効。耳からの情報に慣れる取組として、「ラジオ」の活用等も検討してみてもどうか。</li> </ul> <p>○学校評価から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめについて、今年度行っている「ピンクシャツデー」の取組は、声を出せない児童にも発信できる良い機会だと感じる。毎月のスクールアンケートや日常の観察等で児童の声は吸い上げている。スマホ等のトラブルの案件も少数だがあがっている。</li> <li>⇒いじめはゼロではないが、担任・学年・グループ等で組織的に対応している。</li> <li>・学習への取り組み方が学校と家庭で差があることについて</li> <li>「学習」という言葉の捉えの違があるのでは？「机上の学習」というイメージが強く、家庭と学校とで積極的な回答に差が出たのではないかと、体を使って、五感で学ぶ学習も大切にしてほしい。</li> <li>・アンケートフォームを活用しての学校評価アンケートの回収データの整理としては便利だが、たくさんの情報の中で埋もれてしまう可能性や手間と感じさせてしまう部分もある。慣れてくるとあまり見られなくなってしまう危険性も出てくる。また、保護者の中には学校ホームページを知らない方もいる。</li> <li>⇒学校からの発信・周知の工夫・外国籍の家庭への配慮が必要</li> </ul>		